

日本航空旅客機による定期観測

CONTRAILプロジェクト



東北大学チームが温室効果ガスの研究を開始(1977)

手動ポンプ式の大気採取システムを開発、東亜国内航空DC-9型旅客機で観測開始(1979)

日本航空国際線(成田↔シドニー、成田↔アンカレッジ)旅客機で観測実施(1984-85)

自動ポンプ式の観測装置を開発、日本航空国際線旅客機での定期観測開始(1993)

松枝秀和さんが日本気象学会の堀内賞を受賞(1999)

文部科学省・科学技術振興調整費による観測装置開発の開始(2003)

改良型自動ポンプ方式と、初めての連続観測方式の装置を開発(2005)

米国連邦航空局の許可を取得(2005)

改良型自動ポンプ方式と連続観測方式による、旅客機での定期観測開始(2005)

ボーイング777-200ER型機による観測開始(2006)

環境省の長期モニタリング事業として正式にCONTRAILプロジェクトが開始(2006)

(90年代から続いたボーイング747型機による観測がすべて終了(2010))

CONTRAIL第2期が開始(2011)

日立環境財団・日刊工業新聞の環境賞「環境大臣賞」「優秀賞」を受賞(2013)

日韓国際環境賞を受賞(2013)

町田敏暢さんが日本気象学会の堀内賞を受賞(2014)

ボーイング787型機によるボーイング社の環境負荷軽減技術実証試験に参加(2014)

フジサンケイグループの地球環境大賞「特別賞」を受賞(2015)